ほとけの混和会だより

平成二十三年九月
東光院
仏の混和会
第86号

平成二十三年度の課題は、「共に生きる」と定め、努めて参りたいと存じます。

共に生きる、仏の世界

聖徳太子

今、私達の生きる社会は、温暖化による、大変な猛暑と記録的な豪雨による未曽有の災害。

又、つながり合って存在するはずの人間関係も、希薄なものに成って、孤独社会を招き、「だれでもよかった」などと、多発する無差別殺傷事件。

更に、先の見えない経済に、企業の熾烈な競争、そしてストレスや、うつ病などと、生きると言う事が大変難しい社会と成ってしまいました。

この異常気象や、希薄な人間関係、更に熾烈な競争を招いている原因、これらは無関係のように思われますが、私は、共通する一つの原因が有るように思われるのです。

それは、私達人類が共通して抱いている豊かさを追い求める欲望が、異常気象と孤独社会、更に熾烈な競争心を招いているように思われるのです。

今、自分が抱いている欲望が、仮に得られたとしても、その喜びは一瞬の内に消え去り、又、その価値観も年と共に変貌し続け、いくら追い求めても実態が無い、と言う事に気づけずに、私達は足る事を忘れ、その欲望を追い求めてしまうのです。

その欲望の渦が、地球全体に台風の渦のごとく押し寄せて、地球の温暖化による異常気象や、自分だけの幸を追い求める様々な陰謀と競争心が、人間不信と孤独社会を招いているように思われるのです。

世間虚仮唯仏是真（せけんこけゆいぶつぜしん）

このような状況のなかで、ふと思い出すのが、「世間虚仮、唯仏是真」（世間は虚仮にして、唯仏のみこれ真なり）と言われた聖徳太子の言葉です。

この言葉は決して過去のものでは無く、今の時代に生きる私達に大きな示唆を与えてくれるものと思われます。

ここでいう「虚仮」とは、文字どおり「空しくて、仮のもの」という意味ですが、世間では金や名誉・権力などの欲望を狩り立てるごとく追い求めているが、それらは本当に心に平安をもたらすものでは無く、究極的な心のよりどころを与えてくれるのは、世間を越えた仏の世界のみであると言っておられるのです。

「世間虚仮、唯仏是真」これは争いや陰謀の渦巻く政治の世界に長く身を置いてきた太子が、最終的にたどり着いた心境に違いないと思われます。

私達は、世間の価値観に埋没してしまい、世間が虚仮であることが見えなくなってしまい、自ら苦しみの境地を築いて居るように思われるのです。

世間の価値観を越えた真実の世界、仏の世界が実感出来るようになれば、世間が虚仮であることが見えて参ります。

しかし、世間の醜さを知ると同時に、現実の虚仮の社会を生き抜く道も見いださなくてはなりません。

今、私達は、様々な面に於いて生きると言う事の、大きな岐路に立たされております。

このような時代だからこそ、世間の価値観に振り回されず、安心に満たされながら、人間として、心の豊かな生涯を送る為にも「世間虚仮、唯仏是真」の意義を再確認する必要があると思われます。

最澄様の求めた仏の世界

伝教大師最澄様も、奈良の都の「虚仮」の社会、この醜さを痛感し、この世に、なんとしても「真の仏の世界」を築かなければ成らないと、強い決意のもとに、奈良の都を捨てて、一人比叡山に入られました。

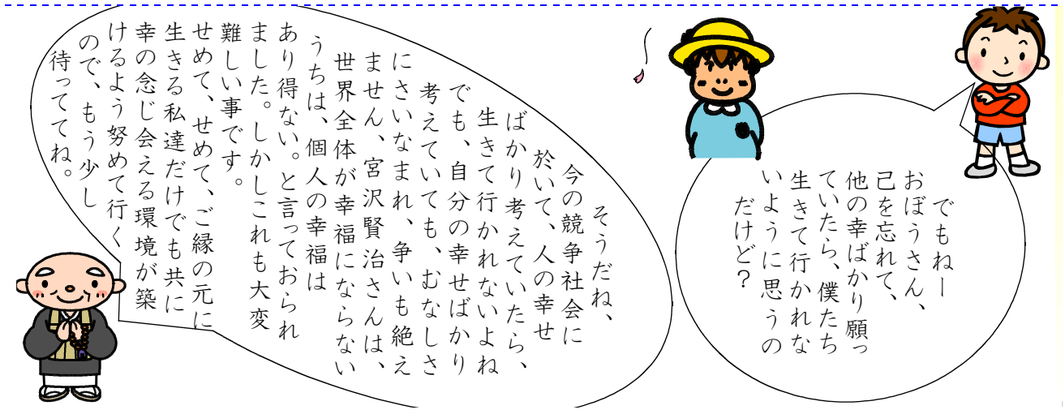
道心（どうしん）の中（なか）に衣食（えじき）有（あ）り
衣食（えじき）の中（なか）に道心（どうしん）無（な）し

最澄様は、この世に、仏の世界を築く為には、私達一人一人が、仏心を抱く事が最も大事な事で有ると言われました。

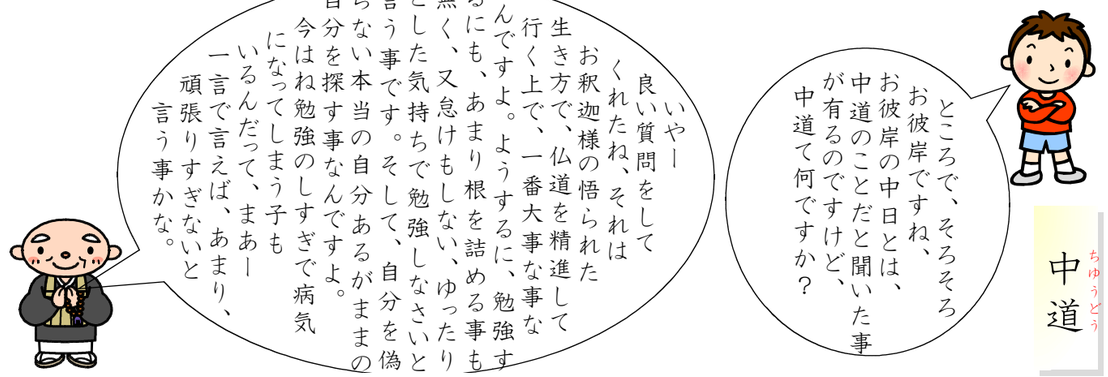
その仏心とは、己を忘れて、他の幸を願う、慈愛心を言い、この慈愛心「道心」があれば、満ち足りた人生を歩む事ができますよ、逆に、財宝、名誉、権力、などを得る事だけを人生の目的としていたならば、道心は得られませんよ、道心が得られないと言う事は、満ち足りた人生を歩む事は出来ませんよ、「道心の中に衣食有り、衣食の中に道心無し」と言っておられるのです。

もし此処に最澄様がおられたら「先ず結果を求めず、他の人々の幸を念じてごらん、己を忘れて、他の幸を願ってごらん、知らず知らずの内に、あなたは、大勢の人々の感謝と優しさに抱かれ、満ち足りた人生と成る事でしょう。真の仏の世界を築く事が出来るでしょう」と、説いて下さっているように思われます。

共に生きる環境の構築



中道（ちゅうどう）



お釈迦様は、釈迦国の王子として、何の不自由も無い、快楽の極地を歩んでおりましたが、それは真実の生き方では無いと感じ快楽の生活を捨てます。そして出家して苦行の極地を歩みます。しかし苦行だけでは真理は得られずに苦行の生活も捨てます。そしてインドのガヤーの森に移り、ゆったりとした気持ちで、「苦にあらず楽にあらず」と中道の心境で悟りを得られました。

この釈尊の、中道の心境を、様々な場面に当てはめて考えてみる事が出来ると思います。

たとえば、「世間虚仮」醜く汚れた世間に染まり、生きて行ったならば、自分を見失い、むなしい生涯と成ってしまいます。

しかし、汚れの無い聖域に身を置いて、仙人のような清らかな出家の生活は、家族が有ったり会社等の組織の中に生きる私達には、とても叶いません。

そこで、極端に汚れもせず、又極端に清くもない、無理をせずに、ゆったりと中道の道を歩みなさいと言う事かと思います。

しかし、己自身、罪、汚れの多き身でありながら、清らかに生きる事が出来ない、己の弱さに、常に懺悔の心を抱く事は、とても大事な事と思います。

そして何事にも片寄らない心、何事にも執着しない心、何事にもわだかまらずに万人の幸を念じる、広い広い、心を会得することかと思います。

お彼岸に当たり、来世も現世も共に、お浄土と成るよう精進して参りたいと存じます。

合掌

彼岸法要のご案内

９月２３日（金曜）午前１１時より

この世も来世も、共に、お浄土と成るように、
万人の幸を念じて、仏の世界を築いて参りたいと
存じます。皆様のお参りお待ち申し上げます。

東光院　電　話　※※※※※※※※※※
ＦＡＸ　※※※※※※※※※※